

事務用

駿 風

7 号
1990

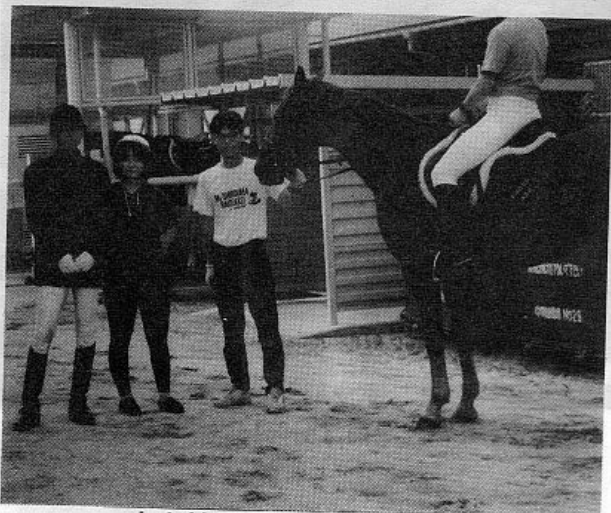
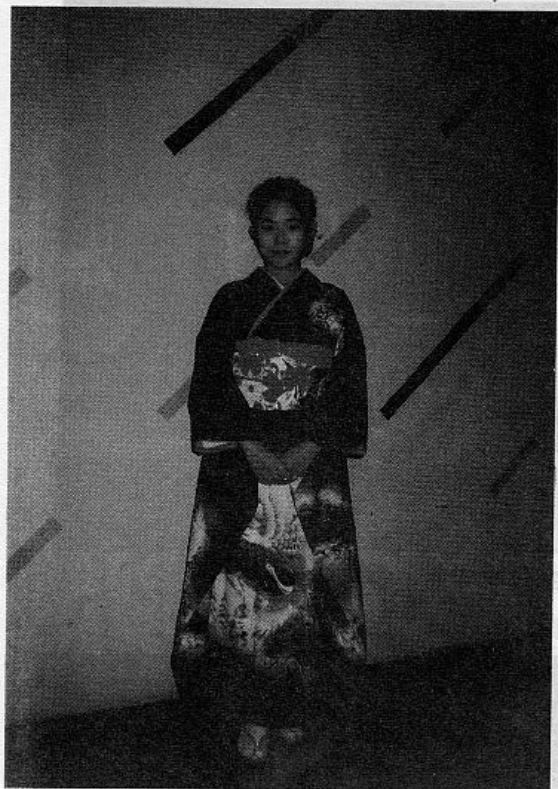


松本歯科大学馬術部誌

松本歯科大学馬術部略歴

- 昭和50年 4月 北村豊部長、西村吉行駿風会長と一、二期生が中心となり、馬術同好会として7名にて発足し、信州中山乗馬クラブ（松本市中山区）にて活動開始。
- 6月 初代部長に坂井忠次教授（数学）就任す。
- 7月 郷原地区に自力にて厩舎建設す。（三馬房、一部室）
- 8月 馬場（60m×40m）を自力にて開墾整地し、馬場建設す。（現在の歯科大陸上競技場）
- 全日本学生馬術連盟、中部日本学生馬術連盟に加盟す。
- 9月 名実共に、自馬二頭を養し、自主独立した馬術部態勢を取る。
- 10月 監督に鶴田哲也氏、コーチに鈴木紀行氏就任す。
- 昭和51年 5月 第二代部長に中後忠男教授（矯正学）就任す。
- 6月 同好会から部に昇格す。
- 7月 初めて中部日本学生馬術大会に出場す。
- 8月 厩舎増築し、五馬房、二倉庫、一部室となる。
- 昭和52年 10月 歯科大陸上競技場建設の為、馬場立ち退きとなり、現厩舎の南に練習場（20m×15m）を移す。2回目の馬場立ち退き。部員にて整地す。
- 昭和53年 全日本学生馬術選手権大会出場（山田博仁、貸与馬）
- 10月 部報第1号刊行す。
- 昭和54年 1月 第三代部長に川原一祐教授（生物学）就任す。
- 全日本学生馬術選手権大会出場（山田博仁）
- 昭和55年 全日本学生馬術大会出場（山田博仁、雄進号）
- 10月 3回目の馬場立ち退きとなり、竹下英吉氏の休耗地の畑を借り受け、練習場とす。部員にて3度目の馬場整備す。
- 昭和56年 7月 歯学体馬術部門に加盟す。
- 昭和59年 2月 駿風会（馬術部後援会）発会す。
- 9月 監督に鈴木紀行氏、コーチに望月一雄氏、山田博仁就任す。
- 昭和61年 10月 4回目の馬場移転となり、現在の厩舎北側に移転決まる。
- 昭和62年 2月 厩舎、馬場新設のめど立つ。
- 12月 2度目の厩舎補修工事される。（屋根の修復）
- クラブハウス完成す。
- 昭和63年 5月 62年度の春・秋期馬場馬術部門での2度の総合優勝の結果、松本市より優秀団体の顕彰を受ける。
- 6月 中部学生自馬競技会にて全日本学生馬術大会、中障害2回走行の出場権利を獲得す。（高橋 治、爆裂風）
- 10月 京都国体、長野県馬術チームの一員として選出される。（佐藤 太、爆裂風）
- 11月 第三代部長川原一祐教授、馬術部顧問に就任す。
- 11月 第四代部長に北村豊助教授（口腔外科学Ⅰ）就任す。
- 平成元年 4月 コーチに埴田俊一就任す。
- 9月 大学より牧草地として土地（90m×30m）を提供される。埴田コーチを中心に部員にて整地、オーチャード種まきをする。
- 10月 部役員に統制を置く。（初代 高橋 治）
- 平成2年 8月 鈴木紀行氏、望月一雄氏技術顧問となり監督山田博仁、コーチ埴田俊一体制となる。
- 平成3年 3月 馬場・厩舎立ち退き予定

卒 部 生 (齒 科 衛 生 士 科)
橋 爪 姉 古 田 姉



中京競馬場にて 古田姉



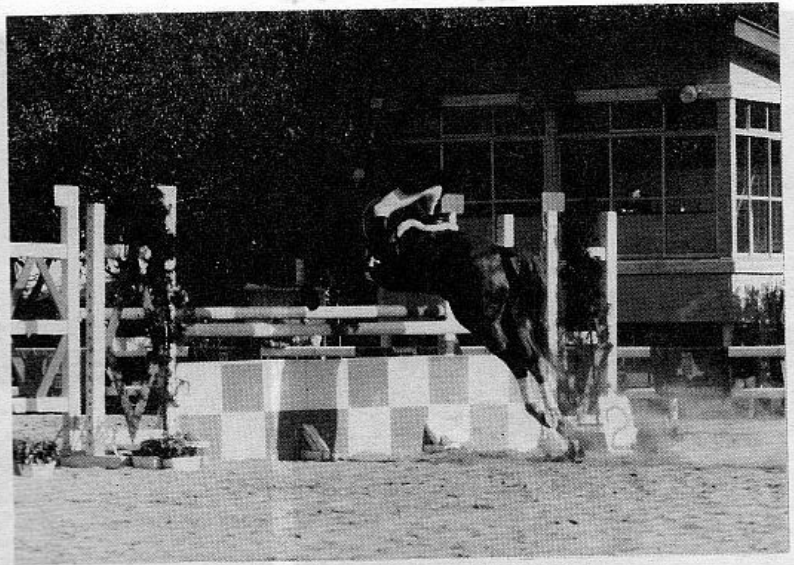
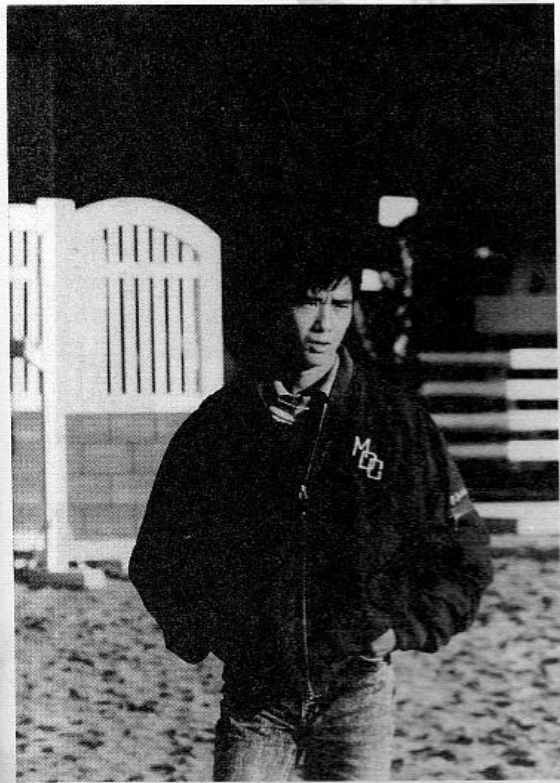
たまにわね。



30 10 31



卒部生 高橋 兄 卒



第31回全日本学生・中障害飛越
飛べ爆烈風号



清風号との語らい



入場前3分



松本馬場にて



「駿風」 第七号 目 次

「厩舎」……………馬術部部长……………北村 豊……………2
 無 題……………馬術部顧問……………川原 一祐……………3
 無 題……………厚生大臣・参議院議員……………下条進一郎……………4
 無 題……………全日本学生馬術連盟会長……………松本齒科大学校友会参与……………4
 無 題……………長野県知事夫人……………吉村知江子……………4
 「寒 風」……………馬術部監督……………山田 博仁……………5
 無 題……………馬術部コーチ……………埴田 俊一……………6
 主将挨拶……………主将……………山本 純也……………6
 OB寄稿……………
 無 題……………駿風会会長……………西村 吉行……………7
 「創部十七年に祈念して」……………駿風会幹事長……………津田 真……………7
 「風物語」……………井上 義久……………8
 「ロッキーに囲まれて」……………山崎なるみ……………8
 幹事報告……………駿風会会長……………西村 吉行……………10
 幹事長……………津田 真……………10
 関東幹事……………石和田清一……………10
 関西幹事……………西川 康博……………10
 中部幹事……………八田 実……………10
 九州幹事……………塚本 卓也……………10
 会計報告……………11
 行事報告……………11
 大会報告……………12
 馬匹紹介・調教報告・厩馬……………14

次

卒部生のプロフィール……………18
 部員のプロフィール……………20
 卒部生の言葉……………20
 「卒部を前に」……………六年 高橋 治……………21
 部員のひとりごと……………21
 「これからの自分」……………五年 小沢 伸次……………21
 「部 報」……………五年 佐藤 太……………21
 「クラブハウスのこと」……………五年 森 仁……………22
 無 題……………四年 田辺 敬富……………23
 無 題……………四年 山本 純也……………23
 無 題……………三年 戒能 正……………23
 「部員二年目になって」……………二年 霜村 次郎……………23
 難 題……………一年 青木 邦和……………24
 無 題……………一年 鈴木 研……………24
 「馬術部に入部して」……………一年 六川真由美……………25
 無 題……………一年 渡辺ひろみ……………25
 厩舎日誌より……………26
 駿風会(OB)名簿……………30
 馬術部名簿……………32
 年間アルバム……………34
 編集後記……………36

厩舎

部長 北村 豊

馬術部の厩舎は、建てられてから十五年以上経過している。継ぎはぎだらけのあの厩舎を見るたびに、私は幼いころに見た大阪の風景を思い出す。私の伯母の墓が大阪にあり、お彼岸になると私たち兄弟は母のあとにくっついて墓参りに出かけた。墓参りそのものは子供であつた私にとってはあまり重要ではなく、墓参りのあとに連れて行つてもらう「百貨店」での外食や、たまに買つてもらうおもちゃが魅力であつた。それらの目的を済ませるために乗る環状線の車窓からは、戦災からまだ十分に復興していない玉造の軍需工場跡や、大阪の街並みを眺めることが出来た。その当時の幼ない私の眼に写つた風景は異様で、トタンやありあわせの板を継ぎはぎだらけに貼りつけたバラック小屋を思い出す。それらのバラックと、松本歯科大学馬術部の馬小屋があまりにも似ているのである。馬場のそばを通つて厩舎が目に入った年配の方々も戦後のそういう景色や、現在の東南アジアのスラム街を思い起こされることであろう。厩舎の外見は、戦後の復興を支えてきたそういう年輩の方々のノスタルジーをかき立てるのに役立っていると思えば、馬術部員のみならず、松本歯科大学教職員は光栄に思わなくてはいけないのかもしれない。

しかし、厩舎が見てのと通りのオンボロであっても、それは広島の原因ドームのようなモニメントとは全く異なるものである。厩舎は部活動の中心であつて、馬術部員達は他の文化系、体育系クラブとは異なり、同級生達が楽しくすごしている正月や夏休み、さらには試験

期間中であっても、三六五日一日も休まず最低でも朝夕の二回、数名以上の学生が厩舎にやって来て部活動を行っているのである。

馬術部や乗馬クラブなどという名称を聞くと、優雅で金持ちの人々がやるスポーツを連想される方々が一般には多いが、私達の大学馬術部に関しては、とんでもないことである。騎乗している姿はたしかに格好よく見えるが、部活動を支え維持していくには、部員達の影の大変な苦勞がある。活動日数は先程述べたように年間三六五日であり、その内容にいたつては、馬の頭の先から巨大なペニスの恥垢取り、そして足の裏の汚れ落しにいたるまでの馬の世話、厩舎の清浄や牧草刈りなど、文字通り埃まみれ・土まみれ・糞まみれの毎日である。裕福で束縛されることの嫌いな人が多いこの歯科大学生のなかで、このような馬術部で年間を通して活動してくれている純朴で土臭く武骨な学生達が何人かは本学にもいることを、私は嬉しく、また誇りにも思っている、これらの学生達が、馬術部での課外活動で得たものは極めて貴重で、とかく視野の狭い歯科医の多い歯科界のなかでも、将来人格的にも勝れた人物に成長していつてくれるものと確信している。このような部員達に非力ながらも私なりに協力をしてきたし、これからも協力していくつもりではあるが、何しろ多忙ではないサラリーマンの私にとっては限度もある。

厩舎の内部は、外観よりもさらにひどく、かつて大成建設が足場用に使っていた細い廃材で建てられた骨組みは各所で継ぎがなされ、土台も腐つており倒壊して学生が下敷きにならなければよいがと思うほどである。馬場にしても同様で、不整形で小さいために思うような練

習は全くもって不可能である。この点はまだしも、もともとは畑地であった土地を借り受けているため、雨後の馬場での練習では馬が滑って転倒しやすく、学生が巨体の下敷きになりかけたことも何度かあり、非常に危険な状況にある。

このような状況に深い理解を示して下さったのが矢ヶ崎雅先生と今回の組閣で厚生大臣になられた下条進一郎先生であった。下条先生は全日本学生馬術連盟の会長を務められ、自らも馬術の経験があるため、現在の馬術部の悪条件の改善にも腐心して下さっている。

このような劣悪な条件下であるにもかかわらず、数年前には長野県馬術連盟から最優秀団体としての表彰を受けたことさえある。部活動を創部以来継続してこられたのも部員、OBの力によるのみならず、大学側の多大な協力によるところが大きい。

しかし馬術部はいま部の存続にもかかわる重大事に直面している。それは地主から現在借用中の厩舎・馬場の土地を、本年三月一杯をもって立退くよう通告が来ていることである。これを契機に馬術部員達が安全に、しかも十分な活動のできる新馬場・新厩舎を確保するために矢ヶ崎雅先生を始めとして大学側が深い理解を示されて多大なる協力を下さっていることに深く感謝したい。

馬術部顧問 川原 一 祐

馬術部の皆さん元気で活躍のこと嬉しく思います。はやいもので、間もなく新年度をむかえるところとなりました。今年も厩舎や馬場の問題をかかえながら、諸種大会で立派な成績をあげ、よく頑張ったと思います。周囲のあたたかい理解や、先輩の協力を得られ、ともに感謝したいと思います。

新人部員の中途退部の話しが気にかゝります。乗馬クラブぐらゐの意識で入部した場合には、部活動としての行動に多大の苦勞意識をもち挫折しやすくなることでしょう。新人部員の勧誘には、是非とも馬に対する愛情や、馬術精神を理解してもらえよう、配慮をお願いしたいと思います。

厩舎と馬場の件は大学側でも、現在鋭意、解決にむけて努力中であるとの説明を得ています。皆さんの団結と協力精神を願ひ、益々活躍されますように、願ひます。

厚生大臣・参議院議員
全日本学生馬術連盟会長
松本歯科大学校友会参与

下条 進一郎

松本歯科大学馬術部の諸君、部創立以来十五周年の節目を迎えられ益々
意気軒昂に部活動に励まれていることと思います。

初めて諸君等の馬術に賭る情熱に触れてからは四年が経とうとして
います。私が全日学生馬術連盟の会長をお引き受けした直後の事
でした。高校・大学と馬術を自分の最も好むスポーツとして過
ぎてきた私にとって同じ馬を愛する仲間として非常に頼もしく大いに愉快な
時を過ごさせていただいたことを記憶しております。

当時我が県の学生馬術は健闘してはいるものの末だ黎明期にあり
ました。そんな折りでもあり学生であったころの我が情熱を思い起され
たことも手伝って、是非全日学生馬術大会に出場すべきだと進言致
しました。賞賛すべきことに諸君達は激戦を戦い抜き大きな校旗を先
頭に中部学生馬術連盟の代表として馬事公苑にやって来られました。
本部席の私の前を『頭、右！』の号令と共に通り過ぎる諸君を見大い
に頼もしく感じました。それは郷里松本より強豪ひしめく関東勢と堂々
渡り合える大学チームが誕生したことを意味するからです。

馬術部員諸君や愛馬の置かれている現状は必ずしも幸福なものでは
なく全日学生大会で覇を競うには数多くの障害を乗り越えなければな
りません。部員諸君の日々の積重ねによる努力と常に前進をめざす若
い情熱を称え、また私も全日学生馬術連盟会長として、そして松本
歯科大学校友会参与としてできる限りのお手伝いをさせて頂きたいと

思います。

松本歯科大学並びに同馬術部が益々ご発展されますよう、また部員
諸君が益々努力し頼もしく成長することを念じつつご健闘を祈りご接
拶に変えさせて戴きます。

※昨年号は印刷の不備から読みづらい点がありましたので今年号
に再掲載させていただきました。

長野県知事婦人 吉村 知江子

私の乗馬の仲間は、私を入れて四人、自慢ではないが大体年令が、
六十才前後……。でも乗馬はあまり年令には関係がないのではないか
と思う。そうでも思わない事にはがんばりが、ききませんもの。

私自身、乗馬を始めたのが十年位前、しかし本当にやる気になっ
たのは、四年位前よりでしょうか。そして仲間を作り、私も仲間がある
事によって、ずい分励みが出て来ました。このグループのすばらしさ
は、何といっても全員、無類の動物好きだという事でもあり、やはり、
そういう事が、乗馬においても一番大切な事になってくると思います。
動物とは、共にたのしく生活し、自分の愛情を分け与えられる相手
でもあり、自分達人間が、めんどろを見てやらねば生きていけないか
わいそんな生き物なのだからと……。そんな事をモットーにして、私
共のグループは乗馬をやってまいりました。

だから馬に乗る事よりも、世話を充分にと、馬房掃除、餌付け、又、水を充分に……等。そのお陰で、お馬さんとは、大変仲良しになれて、年令(?)の割には、乗馬も上達が早かったのではないかと自負しております。

馬術部の皆さんが何年間か、厩舎の新築を希望しておられるのですが、皆さんの気持ち、何かひしひしと伝わってくるような気がして、私も皆さんと共に、是非々々厩舎と、馬場を今年中には確実に、実現出来る事を、心から期待致しております。

馬術部の皆さんも、そのように恵まれない環境で、よく今日までがんばられましたね、賞賛に値すると思います。

しかし、やはり馬の為に早急に、良い環境を作ってやらなければいけないと思います。大学当局の皆様、どうぞこの馬術部の願いをかへてやって下さいませ。

又、そのうち私も仲間と共におじゃまさせていただきますと思っております。

馬術部の皆さん大いにがんばって下さい!

寒 風

馬術部監督 山田博仁

寒風がふく季節が来ました。これからおよそ二ヶ月、我々部員にとつて非常に寒くつらい季節です。この時期の陽が落ちてからの練習は非常につらいものがあります。立っているだけで足の先が凍めたく、そのうちに痛みが変わってくる。また、練習後の馬の爪を水で洗ってあげる時のあの冷たさは今でも忘れられません。そして大雪が降るたびに今にも壊れそうな厩舎(馬屋)がいつつぶれるか、いつも心配したものです。この部もかれこれ二十年近くになります。最初に練習していた馬場は、立派な陸上競技場に変わり、野球場も造られましたが、我々の部は練習馬場こそ何回か移動させられましたが厩舎は十六年前とまったく変わりありません。

学生時代の私はこの季節の練習日になるとどうしてこんなつらい部に入ったんだろうというも思っていました。たぶんOBや後輩もそう思っているにちがいありません。でも、部員、現在十五名はいつもどおり春の競技会にむけて元気に練習しております。終り。

追伸、OBの先生へ、練習もさむいですが、ふところもさむいよう

光陰矢の如しとはよく言ったもので、私も塩尻に住みついて早、十年が過ぎようとしています。いつのまにか三十三才になり、自分の人生のほとんど塩尻にいます。卒業してからは仕事に追われ、あまりクラブにも顔を出せなく、人馬共息災で結構な事でありました。本年度は、クラブの念願である厩舎、馬場新設を目ざし一歩も二歩も前進していかねばならない年です。「どうなるのか」は婦女子の考えであり、男は「どうするか」を考えねばなりません。しかし、大学の理解も必要とすることが大きいこの問題は、部員一人一人ではどうしようもない事です。もう一度すべての力を集結してこの問題に取り組み、今年は、クラブにとっても、自分にとっても良い年でありますようにと思っています。どんなに仕事がたらくても、がんばり通す根性と、クラブ運営に責任をもって共に友情を大切に持って行って下さい。

主将挨拶

主将 山本純也

馬場、厩舎を作る計画をしてもう何年にもなりますが、なかなか改善されないのが現状です。厳寒の信州でトタン張りの厩舎では馬の健康にも常に不安が残ります。部員一同の補修にも限界があると思いま

す。

最後に、「駿風」7号刊行にあたりご協力頂いた皆様に感謝します。



す。最後に、「駿風」7号刊行にあたりご協力頂いた皆様に感謝します。馬場、厩舎を作る計画をしてもう何年にもなりますが、なかなか改善されないのが現状です。厳寒の信州でトタン張りの厩舎では馬の健康にも常に不安が残ります。部員一同の補修にも限界があると思います。光陰矢の如しとはよく言ったもので、私も塩尻に住みついて早、十年が過ぎようとしています。いつのまにか三十三才になり、自分の人生のほとんど塩尻にいます。卒業してからは仕事に追われ、あまりクラブにも顔を出せなく、人馬共息災で結構な事でありました。本年度は、クラブの念願である厩舎、馬場新設を目ざし一歩も二歩も前進していかねばならない年です。「どうなるのか」は婦女子の考えであり、男は「どうするか」を考えねばなりません。しかし、大学の理解も必要とすることが大きいこの問題は、部員一人一人ではどうしようもない事です。もう一度すべての力を集結してこの問題に取り組み、今年は、クラブにとっても、自分にとっても良い年でありますようにと思っています。どんなに仕事がたらくても、がんばり通す根性と、クラブ運営に責任をもって共に友情を大切に持って行って下さい。

OB寄稿

馬術部OB会会長 西村 吉 行

創部十六周年おめでとうございます。部員の皆様は今日も、凍りつく冬の信州の地で愛馬と共にがんばっておられる事と思います。振り返れば馬術部として産ぶ声をあげた当時の事がつい昨日の事のように思われます。その間に多くの学生が入部し活躍した人々そしてその輝かしい成果を陰で支えた人々そして愛すべき馬達。人馬一体となつて一筋に打ち込んだ経験はきっと卒業後それぞれの心の中でかけがえのない宝物となる事でしょう。悔いのない部活動をOB会の一員として現役の皆様にも期待致します。

最後になりましたが、これまで部を暖かく見守り陰となり日なたとなり御指導を賜りました関係各位の皆様方にOB会を代表致しまして心より御礼を申し上げます。

創部十七年に祈念して

S 55卒部 津田 真

今年も馬術部にとって厳しい冬の季節がやって来た。陽は早くに暮れるし、冷たくなる一方の水での手入れは、現役を遠く離れた今となっては想像するだけで、風邪をひきそうになる。今だなんともならない

トタンだけの厩舎で、愛馬達も他より寿命が短いのが、なんとも可哀想である。90年入部の一年生は特に頑張りのきく、期待できる人材が居て、なんとも頼もしい限りである。

部の方としては、六年から一年まで、授業の許す限り、引退という时期的制限を付けず、各学年、各自、絶対他に甘える事なく、任務、責任をはたす様、もう一步精進する様、肝に命じておいてほしい。我部はもはや、中小企業経営の如く、社会人、社会生活にも似た活動分野がある。子供のお遊び的クラブ活動ではないので、年を経る度に、他部が衰退する中、ますます充実して居る訳である。

国体、全日本学生、中部日本学生、中日本大会、北信越大会、オーラルデンタル、県大会、市民大会、東京農大合宿、信州大定期戦と、松本歯科大学という場内アナウンスの中、松本歯科大学の名の元、全国にその名を知らせ、今年も、その活動を展開した。松本歯科大学の看板クラブとなり得るのは、もう馬術部以外には無いと考える。

学生達は、遠く郷里を離れ、希望を胸に本学に入学し、しかし年を過ぐすと慣れの中に学業の他にも、熱い想いを受けとめ、同じ喜びを分かちあえるサークルを欲します。大学生活の中で、部活で何をしてきたか、所属していたのかどうか、社会に出てからも、人間の広がりとして、日々の臨床に反映している事を感じております。ノンポリの学生が多い昨今、人間をあつかう職に就く学生達であるのに、情に薄い学生達を見るにつけ、心細さを感じます。それが大学全体のクラブ活動に蔓延しているため、つぶれてゆく部も多々あると聞きます。もったいない事です。

ただその中で、松本歯科大学に馬術部有り、そのつもりで日夜努力している訳であります。これは、馬術部の魂であり、大きく言えば、もうわずかになってしまった、松本歯科大学の魂でもあります。全国に誇れる部を作る事は、学生達だけにまかせるのはリスクが高すぎる点もあり、大学の理解ある協力が必要です。自分達の意志を持った部が非常に少ないが故に、松本歯科大学を代表して動ける部は、馬術部がその任にあると考えます。

魂の宿った馬術部に、安住の厩舎と馬場を作っていただきたく、切に大学側に要求、お願いを、いたします。

風物語

井上 義久

アルプスの雪が溶け梓川に流れる頃、春風によって新入生が希望と不安に胸膨らませ、松本歯科大学に入学する。今年はどうな奴が入部するのだろうか、きっと、今年も個性的な奴だろうな…、沢山入部してくれば良いが。

ムツとする熱風が吹きこむ名古屋に選手達の熱い闘いが始まる。皆、ゆっくりあせらず、無理して一つでも多く障害を跳んでもらいたいな、しかし、絶対事故のないように。往復の道中、居眠り運転なんてするなよ。

薫風がブドウの香り運んで馬場に流れる頃、もう秋はすぐそこです。

部員達は定期試験に長野県大会に多忙な毎日で大変だ。夏の疲れを癒すにもう少し時間があればいいのに、オフシーズンのある部がうらやましかった。

凍りつくようなアルプスおろしが洗い場に吹き込み、厳しく辛い季節がやって来る。馬の手入れなんかしたくないよな。一年生はここが正念場だ、ここでくじけるな。きっと陽はまた昇る。馬場で鍋でも囲んで嫌な事は全て忘れろ。

最後に一言、学生の為の部だ、自分達のしたいようにやれ、だが、自分達の行動の責任は自分でとれ。

ロッキーに囲まれて

山崎 なるみ

六月つゆを逃げるようにカナダに向った。カナダはまさに春。花々が咲きみだれ肌に触れる風がとても心地良かったのを今でも覚えてい

る。その中でも私の一番のお気に入りの場所となったバンフ。街は山々で囲まれ湖のあるとても自然の美しい街で、風のない日はその湖が山々をきれいに写し出す。

自転車で五十分位走り街から少しはずれると、動物達に出逢える。熊（グリズリー等の大きなヤツではない）やビーバー、鹿等々。中でも一番嬉しかったのはピックホーンシープに出逢えた事。しかも雄の

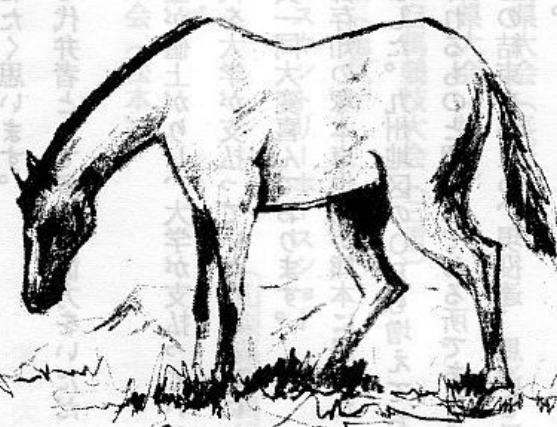
とても大きなヤツ。おまけに彼等はまるで人間を怖がらない。それはもちろん、パンフの人々が彼等に何の危害を加えないのだからうし、きつと街の住民と同じなのだとして一人では思っている。

日中は連日観光に行く。コロンビア大氷原やレイクルイーズ等。暇を見つけては近くの散策に出かけて行った。本当に何を見ても、どれを見ても美しく感激した。街を歩き交う人々も気軽に声をかけてくれる。治安も良いから、こんな小娘が一人チョコチョコしていても平気で、そこも気に入っているのだが…このまま、ここにずーっと居る事ができたのならと思うがそういうわけにもいかず、沢山の思い出と心残りと共にパンフを後にし、カルガリーに向うハイウェイバスの中で窓を押しつけ、流れゆく景色を見ながら突然のカナダ行きで何の期待も持たず飛行機に乗って来た自分が、目の前に公然と晒された大自然を満喫できた事、そして又この旅行が自分自身の中で自分の生き方の中で、大きな変化とヒントをくれた事に感謝している。

皆が同じだとは思わない。ただ目の前のものに取らわれ過ぎて自分の事しか見えない人が多い。まるで自分で自分を悲劇のヒロインとも思っているかのように。人間性というものをもう一度考え直し、もっと大きな目で物事を見る事ができたら…と思ひ、大きな希望と一緒に真下に広がるロッキーの山々を見ながら、果てしない雲海の中へと飛行機は私を乗せて日本へ向って行った。

行事報告

2月3日、4日、スキー旅行（新ヶ岳スキー場）
 3月20日、27日、スキー大会（大台宿）
 4月10日、18日、スキー大会（新ヶ岳スキー場）
 5月10日、18日、スキー大会（新ヶ岳スキー場）
 6月10日、18日、スキー大会（新ヶ岳スキー場）
 7月10日、18日、スキー大会（新ヶ岳スキー場）
 8月10日、18日、スキー大会（新ヶ岳スキー場）
 9月10日、18日、スキー大会（新ヶ岳スキー場）
 10月10日、18日、スキー大会（新ヶ岳スキー場）
 11月10日、18日、スキー大会（新ヶ岳スキー場）
 12月10日、18日、スキー大会（新ヶ岳スキー場）



90年度駿風会幹事報告

会長	西村 吉行
幹事長	津田 真
関東幹事	石和田 清一
関西幹事	西川 康博
中部幹事	八田 実
九州幹事	塚本 卓也

90年9月に、監督、コーチの交代がなされました。会員各位には愛着のありました鈴木紀行氏、望月一雄氏が、日馬連役員及び国体の長野県強化選手のため、ますます多忙を極め、従来通りの馬術部一辺倒の指導が困難となったためによります。我部にはS50年度より16年間もの長きに亘り公私共に指導いただきました。最近におきましては、高橋治+爆裂風の全日本学生出場を可能ならしめ、両氏の技術的、人間育成の手腕には、ただただ頭が下がる所のものであります。また、ベルファイト号、雄進号など懐かしい馬達も、両氏の御厚意にて貸与いただき、二回走行、学典に出場できるまでの部に成長した引き金、原動力になった事も忘れてはなりません。そうした身銭を切る様な、心と労働で我部と共に駆け回っていたいただき、特に中部学生には毎年、仕事を休まれ、選手の指導、馬匹の調整に来ていただいていた事に、改めまして会員一同感謝の意を表すものであります。大変心細く

なっただと思っておりましたが、鈴木紀行氏、望月一雄氏には、技術顧問として残っていただけな事となり一安心です。新監督には山田博仁君、コーチに埴田俊一君が就き、我部OBでの指導陣という所で、より一層の細部にまで巨る配慮と指導を期待するものであります。

矢ヶ崎雅先生の秘書氏と津田真君が面談をし、折衝はいたしました。全日本学生馬術連盟会長の下条進一郎先生も、本学校校友会参与という役職にある間柄にもあり、この点、大変心配していただいております。さらに大学側と密な折衝を重ねたく思います。

川原一祐先生には、馬術部の代弁者として多くの協力をいただいた事を付記します。

現在の馬場、厩舎の土地代金が値上がりし、大学が支払っていただけ事になった事、電気、水道代を大学が支払っていただけ事になった等、改善されました点、部員一同大変喜んでおります。

90年度10月より皆さんよく御存知の塚本卓也君が熊本に帰ったのを機に九州幹事に就任してくれました。九州地区のOBも増えており、九州OBをよくまとめ上げてくれるものと期待しております。以上、91年度もますますOBの結束をかため、現役達、馬達を励ますべく、協力お願いいたします。

会計報告

平成2年度収入総計及び内訳

OB、OGより	300,000円
部費	405,000円
全日本学生馬術術連盟補助	548,904円
大学補助	300,000円
電気水道代補助	72,000円
アルバイト代	320,000円

収入総計 1,945,904円

平成2年度支出総計及び内訳

飼料	747,000円
装蹄	410,000円
おが粉	120,000円
連盟登録費	166,000円
馬購入	250,000円
輸送費	150,000円
電気・水道代	72,000円
雑費	310,000円

支出総計 2,225,000円

約30万円ほどの赤字ですが、これはなんとかなる見込みです。

行事報告

- 2月3～4日 スキー旅行(爺ヶ岳スキー場)
- 3月20～27日 農大合宿
- 3月29～4月7日 春期合宿(塩尻)
- 4月29日 春期馬場県大会(長野)
- 5月13日 春期障害県大会(松本)
- 7月1～5日 中部学生自馬競技大会(三重)
- 7月18～24日 夏期合宿(塩尻)
- 8月4～6日 山梨クロスカントリーホースショー
- 9月6日 馬場コンパ
- 10月14日 秋期県大会(松本)
- 12月14日 忘年会

(山梨県立馬場)

大会報告

△春季長野県馬場馬術選手権大会▽

平成二年四月二十九日

会場 長野市宮馬術競技場

総合馬場

一位	望月	ピルグリム	135点	松本
二位	藤野	雪皇子	128点	信大松本
三位	北原	ダブレット	116点	松本

一位	藤野	雪皇子	116点	信大松本
二位	清水	プリスカ	109点	松本
三位	小沢	ペチカサング	100点	長野

一位	田辺	敬富	93点	齒科大
二位	山本	純也	109点	齒科大
三位	山本	純也	90点	齒科大
四位	田辺	敬富	89点	齒科大

一位	佐藤	太	125点	齒科大
二位	竹村	アラリッヒ	115点	須坂
三位	小沢	伸次	109点	齒科大

一位	日下部	雄山	106点	長野
----	-----	----	------	----

二位	長谷川	雪皇子	97点	信大松本
三位	堀	アズマII	92点	須坂
四位	影山	徹	84点	齒科大
五位	戒能	正	73点	齒科大

一位	鳥居	ジャーナル		信大伊那
二位	河田	健一		齒科大
三位	古田	千夏		齒科大

一位	若雄	エジンバラ		上田
二位	霜村	次郎		齒科大
三位	赤羽	ジャーナル		信大伊那

△春季長野県障害飛越選手権大会▽

平成二年五月十三日

会場 松本馬術競技場
中障害飛越競技B

一位	中村	ポールドクラリオン		須坂
二位	北村	オガデン		須坂
三位	西沢	爆裂風		長野馬事

一位	北村	デイトウリッパー		須坂
----	----	----------	--	----

二位 西沢 対手 オガデン
三位 佐藤 ラ・ビアンカ

山本 純也 爆裂風

小障害A成年

一位 清水 ブリスカ

田辺 爆裂風

戒能 爆裂風

長野馬事
長野馬事

齒科大

松本馬事

齒科大

齒科大

△第二十五回中部学生自馬競技大会▽

平成二年七月二日～五日

会場 三重県馬術競技場

学生賞典馬場馬術競技

再審

一位 川地早和子 ゼウス

二位 中込 治 タッチアップ

三位 追分 英治 シヤイニングポイント

予戦

佐藤 太 清風

田辺 敬富 遠雷風

複合馬術競技障害

一位 角谷 秋吉 タッチアップ

二位 中込 治 デインプル

三位 追分 英治 シヤイニングポイント

山本 純也 爆裂風

中障害飛越競技

一位 中込 治 デインプル

二位 追分 英治 シヤイニングポイント

三位 関根 正文 ヴェンプル

山本 純也 爆裂風

△秋季長野県馬場選手権大会▽

平成二年十月十四日

会場 松本馬術協会馬場

部班馬場馬術競技(速歩班)

一位 青木 邦和 ブルーノート

四位 鈴木 研 ジュン

齒科大

福工大

福工大

福工大

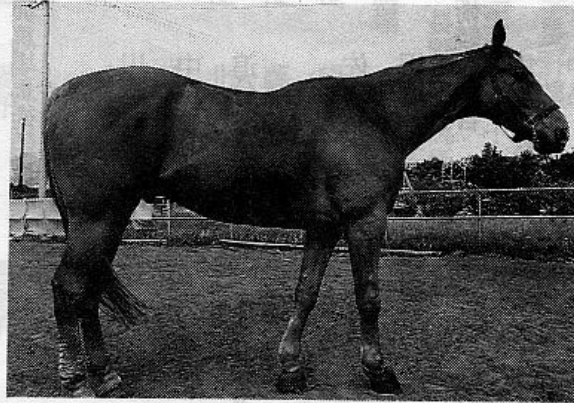
齒科大

馬匹紹介・調教報告

爆裂風 (エクセルメイト)

昭和51年4月生

種類 サラ
性 セン
毛色 栗毛
特徴 星ノ珠目二



(戦績)

1987

第18回	春季長野県大会障害 小障害A	5月10日	松本馬術場 三位 相馬 弘
第18回	秋季長野県大会障害 小障害飛越 中障害飛越B スピードアンドハンディネス	10月4日	佐藤馬事苑 (長野県小川村) 三位 相馬 弘 五位 高橋 治 二位 "
1988			
第19回	春季長野県大会障害 小障害飛越 スピードアンドハンティネス	5月8日	松本馬術場 一位 佐藤 太 四位 高橋 治
第23回	中部学生自馬競技大会 中障害二回走行	6月24日~26日	三重県立馬術場 九位 高橋 治
第31回	全日本学生障害飛越競技会 中障害二回走行 京都国体予備選手・予備馬	11月1日~2日	馬事公苑 失権 高橋 治 佐藤 太

今年で16歳となり、我部としても古馬ではあるがまだこの馬に対する期待は大きく、どれだけ力を落とさない様に使っていくかが問題である。肢、腰共に弱い為疲労を持たさぬように気をつけている。いったん障害に向かうと突進してしまうので、未熟な者だと飛越後のたて直しが効かず、次の障害に向かわせることができない。

優しく世話をする者には非常に従順であり、普段の練習でけじめのついた調教を行わない事には、期待に答えてくれる事がないので、愛情を持って接している。

清風 (ジュンブライト)

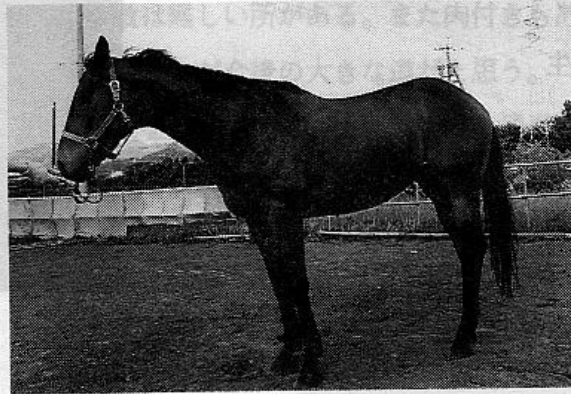
昭和55年3月生

種類 サラ

性 セン

毛色 鹿毛

特徴 額刺毛・珠目正



(戦績) (ハート)

1986

第17回 春季長野県大会馬場馬術 4月29日 松本馬術場
部班 三位 高橋 治

1987

第18回 秋季長野県大会馬場馬術 10月24日 松本馬術場
部班 三位 高山 秀子
総合 三位 高橋 治

1988

第19回 春季長野県大会馬場馬術 5月8日 長野馬術場
二級課目 三位 森 仁
三級課目 二位 佐藤 太
第19回 秋季長野県大会馬場馬術 10月23日 松本馬術場
部班 (速歩) 三位 大野美智昭
部班 (駆歩) 一位 田辺 敬富
三級課目 二位 佐藤 太

1989

第24回 中部学生自馬競技大会 8月2日～6日 中京競馬場
学生賞典 十三位 佐藤 太

1990

第21回 春季長野県大会馬場馬術 4月29日 長野馬術場
国体成年二部課目 一位 佐藤 太
部班 (駆歩) 三位 古田 千夏
第25回 中部学生自馬競技大会 7月2日～5日 三重県馬場
学生賞典 十三位 佐藤 太
第21回 春季長野県大会馬場馬術 10月14日 松本馬術場
部班 (速歩) 四位 鈴木 研

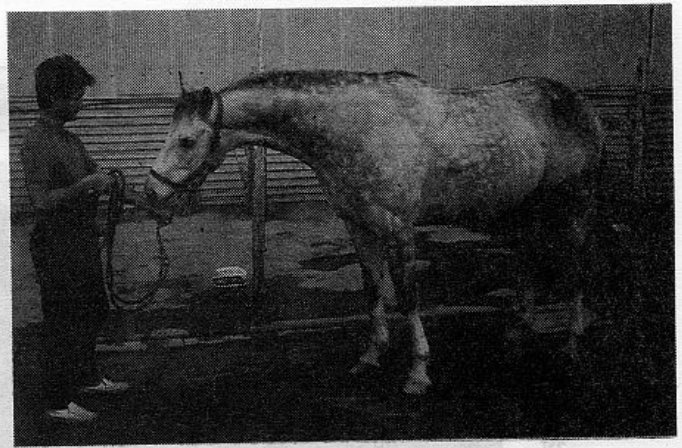
昨年、一昨年と中部学生で学生賞典に出場し、動き、見映えとも期待されたが、緊張の為推進力に欠けた。頭が良いのだが、神経質で考え過ぎのところがあり調教のとき混乱することがある。その為、抜群のパネを持ちながら障害には生かせなかった。

今後馬場馬としての活躍を期待する為には小さな大会でも良いから、まず場慣れをすることである。しかし、この馬から教わることは非常に多いものだ。

遠雷風 (ブルーノート)

昭和57年5月14日生

種類 サラ
 性 セン
 毛色 芦毛
 特徴 流星鼻梁鼻大白断上下唇白・珠目正・
 右髪中・前二白左後細長白



(戦績)

1988

第19回 秋季長野県大会馬場馬術 10月23日 松本馬術場
 二級 二位 山本 純也
 総合 三位 山田 博仁

1990

第21回 秋季長野県大会馬場馬術 10月14日 松本馬術場
 部班(速歩) 一位 青木 邦和

風乃四郎 (チョコレートベル)

昭和61年3月生

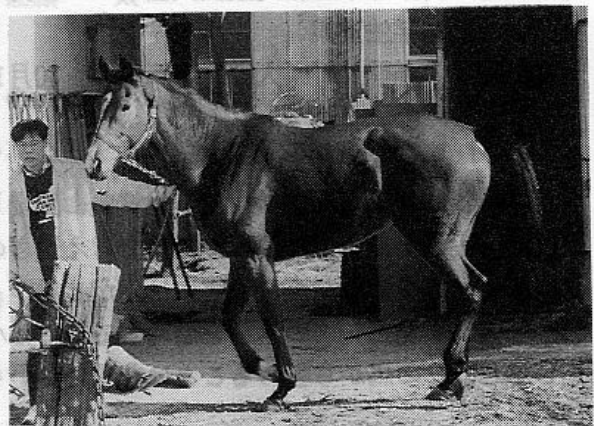
種類 サラ
 性 セン
 毛色 芦毛
 特徴 珠目上・波分・初地・沙流上



風鈴

昭和61年4月生

種類 サラ
 性 牝
 毛色 鹿毛
 特徴 流星鼻梁小白鼻梁白鼻大白・珠目正・
 吭擲二・波分・右前一白



性格は非常に素直で頭が良く、物にあまりこだわらず、調教する方としては行き易いのであるが、ハミとのコンタクトに難があり、学生としての調教は難しい所がある。また肉付きもあまり良くなく、もう少し我慢をしてゆっくり彼女と付き合ってみることが今後の大きな道だと思う。

マルタンガールでの調馬索、折り返しでの騎乗を続けている。また路上木の通過を行っているが、非常にスムーズである。

退 厩 馬

風越院 (ハート)

昭和54年4月生

種 類 サラ
性 セン
毛 色 鹿毛
特 徴 流星鼻梁・刺毛目上・後白

(戦 績)

1987

第18回 春季長野県大会馬場馬術
三級課目 一 位

第18回 秋季長野県大会馬場馬術
三級課目 二 位
総合課目 一 位

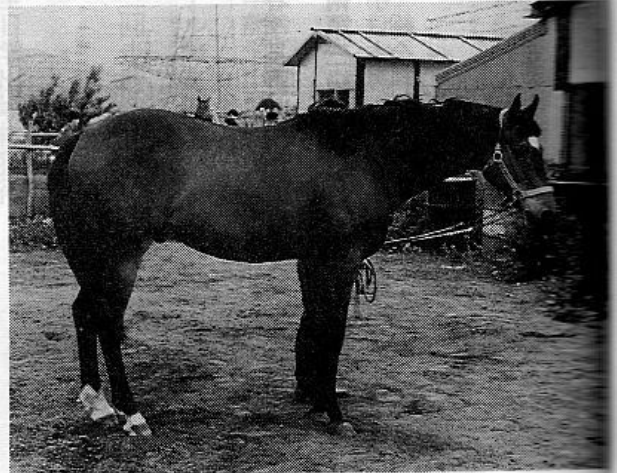
1988

第19回 春季長野県大会障害
中障害飛越A 二 位
中障害飛越B 二 位
スピードアンドハンディネス 一 位

第19回 秋季長野県大会馬場馬術
総合課目 一 位

1990

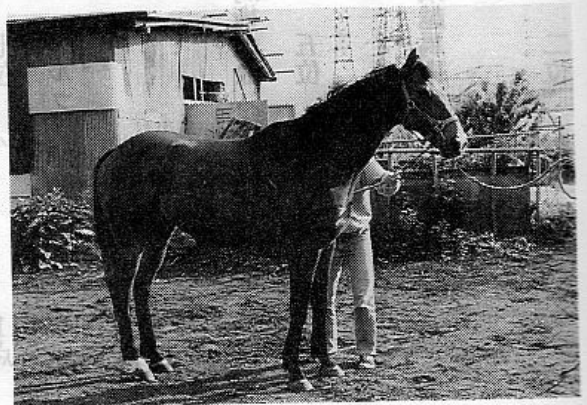
第20回 春季長野県大会馬場馬術
国体成年二部課目 三 位



舞 風

昭和54年4月生

種 類 サラ
性 セン
毛 色 鹿毛
特 徴 流星鼻梁刺毛鼻梁白・珠目上・右髪中・波分・右後白



卒部生のプロフィール

高橋 全日本学生選手権大会に出場した兵。ただ今、卒試。

国試にむけて、ラストスパートをかけています。

橋爪 峠を越えて、岡谷からやってきたコンパ大好き女の子。

笑顔をたやさず国試勉強にいらしていただきます。

古田 動物好きの彼女はおとなしい顔でなかなか根性があります。落馬にもめげず、今日も騎乗に手入れに力を入れています。

戦績

高橋 治

一九八七 第18回 春季長野県馬場馬術大会 (4月29日)

馬場馬術第三級科目

六位 清風

159点

同 総合科目

ベルフアイト

284点

清風

176点

一九八八 第19回 春季長野県馬場馬術大会 (4月29日)

馬場馬術総合

五位 清風

232点

第19回 春季長野県障害飛越馬術大会 (5月8日)

中障害飛越 A

爆烈風

同 B

二位

"

第22回 中部学生馬術大会

トライアル障害飛越

爆烈風

失権

中障害二回走行 一回目

爆烈風

失権

二回目

"

失権

総合馬術

"

棄権

第18回 秋季長野県障害飛越大会 (10月4日)

中障害飛越 A

爆烈風

同 B

五位

"

スピード&ハンディネス

二位

"

馬場馬術総合

三位 清風

126点

七位

"

110点

ベルフアイト

105点

スピード&ハンデネス 四位 爆烈風

無謂 あまり口まひりなく、
六回 高橋 治

中部をゆく
中日本馬術大会出場権獲得

由位 主幹として、
二年

第23回 中部学生馬術大会

トリアルル障害飛越 失権 爆烈風

中障害二回走行 九位

小穴 全日学出場権獲得
二年 学生賞典馬場

四年 ベルファイト

第31回 全日本学生障害飛越競技会 (11月1日~2日)

爆烈風 失権

中日本馬術大会 爆烈風 出場

爆烈風

爆烈風

爆烈風

これからの自分

五年 小沢 伸次

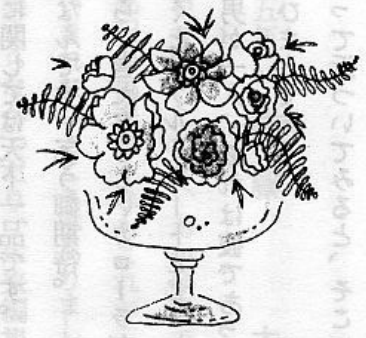
高橋 治

なることになったからである。現時点でいうても、学生の本職に

とってみると恐いのである。それは、自分自身振り返ってみただけに何
かしろに悔き、負う大重なる事、事実、必ひのいからであるし、このまま
稲田、村文、吾の言葉、入派、稲田、村文、吾の言葉、入派、稲田、村文、吾の
ろうか。バカリス思ひませ。

しか、ひびき、せい、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、
最初、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、

と、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、
おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、
おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、



例えは、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、
おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、
おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、おび、

部員のプロフィール

(敬称略)

森 「ヴォーン」車が止まり中から一人の男が出て来た。彼はサン

グラスの似名うなかなか渋い男である。ふと気づくとそれは森さんであった。『今度みんなで飲みに行こうや』だれかが言った。その瞬間であった、森さんの目の色が一転したのは。

彼はまた酒のよく似合う男である。

佐藤 厩舎の中から「ウッウリウリ」と子供をあやす様な声が聞こえてきた。『おや』と思いい中をのぞくとそこには佐藤さんがいた。ジュンとたわむれて(?)いるのである。しかしその肝心なジュンの方はいつもながらの迷惑顔であった……

小沢 「おう、そこからちよっと金づちとってくれや」小沢さんは厩舎のトタンの修理をしていた。「金のないクラブはこれだからこまるわあー」つくづくそう嘆いていた。彼はひまさえあれば何か修理しているそんな人である。

山本 外見はちよっとたよりなく見えますが、主将の役目を一生懸命やっています。たよりにしてませー主将ノ

田辺 主将を助け、はや一年、人は彼を陰の実力者と呼ぶ。縁の下の力持ちとは、彼のことである。

戒能 あまり口をひらくことがないが、馬に乗っている時の顔が一番輝いている、そんな人です。

藤下 我が部のホープ、クラブにコンパにがんばっています。コンパの方に片よらないよう期待します。

加藤 この部活にいるものの今事務的なことを専門にしているため馬に乗ることはない。しかし事務に関しては天下一品です。

霜村 ただ今休部中ですが、部活熱心なんです。乞う御期待。

青木 この間厩舎の前を通りかかったら、きたらしいカローラが一台止まっていた。ふと中をのぞくと、ブルーノートとじゃれるいや『じゃれてもらっている』男が一人、それは彼であった。時間があると厩舎に足をはこびま人である。

鈴木 ウォンバットが歩いていると思っ近づいてみると、そこには坂上二郎が立っていた。『えっ』と思いい目をこすってよく見るとそこには彼がいた。彼はどんなことがあっても常にマイペース、そんな人である。

六川 夏のある日のことである。突然「キャーッ」という声が馬場にひびきわたった。落馬したのである。その後クラブハウスにかつき込まれたのは彼女であった。

渡辺 いつもおとなしい人ですが、不思議にも酒が入っても性格が変わりませんでした。今度のコンパでは、しっかりと飲んでもらいたいと思います。

山田 彼女、言の葉多く無く、由に我彼の人の事多く知らず、されど、明るく良き人成る事又事実なり。

卒部生の言葉

卒部を前に

六年 高橋 治

一年 ひたすら馬房そうじ、馬装、使役の毎日。ポート、ジュンの

常歩をする時が一番楽しかった。

二年 後輩の入部が嬉しかった。

佐藤と二人で行った東京農大合宿は辛かった。

三年 主将になり毎日大変だったが部は楽しかった。エース馬に乗

らせてもらえる嬉しさと試合たる厳しさを知った。中部学生

での悔やしさは今でも忘れない。

四年 部も絶好調の時、全日学に出場したのもこの年でした。

五年 現役から退いた寂しさを感じた。

六年 自分の思いとは裏腹に部の現状は…、そして卒試の結果は…。

この六年間、部の伝統を支えるかのように私に力をくれた馬達、熱心に御指導くださった部長、監督、コーチをはじめ皆様に御礼を申し上げます。

部員のひとりごと

これからの自分

五年 小沢 伸次

時の流れとは恐ろしいものである。何故かと言えば、もう現役引退することになったからである。現役引退といっても、学年の都合上忙

しくなって、今までと同じ様にできなくなるだけである。だが自分にとってみると恐いのである。それは、自分自身ふり返って見た時に何かしら半端であったような気がしてならないからであるし、このまま終ってしまったよいか、少し納得のいかないのだがどうしたものだろうか。

しかし、終わってしまうと言っても、それは現役の一線から退いただけであり、何もかも終るのでないのである。ただ、部活の時間内に行くことができなかつたり、もう試合には、出場しなくなるのである。だが、別なことで手伝いをしたり、また暇な時間があれば、行くことは可能である。

最初の方で半端になってしまったと言ったが、これからは、今までとは違った方法において現役部員たちの邪魔にならずに最大限の協力をして行きたいし、やるべきだと思う。

部 報

五年 佐藤

太

昨年矢ヶ崎先生直筆の書を表紙に使わせていただき、おかげ様で大変評判の良いものとなりました。さて部報の稿を書くのもこれが五度目となりましたが簡単に五度目とは言いきれないところがありました。例えば原稿が期日を過ぎてもなかなか集まらなかったり、本来編集するはずの者がのんびりしと無用な時間が過ぎ発送が異常に遅れるなど大変恥ずかしい思いをしたこともありました。しかし、そういった苦い思いをして作った部報でも一年二年経ってから読み直すと、なつか

しいというよりもその時代の自分やその存在を強く感じることが出来、クラブにとっても自分にとっても素晴らしい財産になるだろうと思います。

さて私は以前この部報の中に我が馬術部の厩舎新設について書いたことがありましたが、その要望も聞いていただくことが出来なかったらしく、いっこうに状況は変わりません。大学側にも完成した部報はお渡ししているはずなのですが、本当に読んでいただいているのか疑問に思います。もしそれが成された時にはその年の部報にはその事が記され、部員一人一人が大きな自信を持ち将来に大きな財産を得ることとなると思います。この部報を生かしていただく為にも大学側に願いをかなえていただきましたと思います。

クラブハウスのこと 五年 森 仁

松歯大の第二学年に編入し、日をおかずして馬部に入部。早三年半が過ぎる。決して長くはない年月であるが実に多くの事を経験した。駿風のバックナンバーを読み返してみると、当時の部員の活動、その場面場面が頭に浮かんでくる。

さて、今回は現クラブハウスにまつわるエピソードについて記す。プレハブの現クラブハウスが建つまでは、厩舎内の一室を使用していたが、ポロポロでありかつ狭い為、ミーティングなどは大学食堂や、当時塩尻に住まわっていた津田先生の御自宅で行っていた。部員数も多く、様々な活動の拠点として、クラブハウスの必要性が高まり、活

発な案が出された。金銭面、実用性など考慮の末、二つの案に選ばれた。一つは国鉄の廃車車輛。一つはプレハブ。古い車輛を使う案の方が部員達にはうけていたが、数種類ある車輛タイプでクラブハウスに使用できる型のものが売られきれていたことからプレハブで行こうと決まった。部員間での話し合いが進む一方、大学からの許可がなかなかおられない。現在の馬場敷地内に、建設物は市から許可されぬというのである。部でも市役所に問い合わせたところ地面に基礎を打ちこまぬ、移動可能な仮設であれば問題なしとのこと。数度のやりとりの末、指示があれば取り壊すという条件で許可を得る。もし許可が得られぬなら、厩舎内にプレハブを入れちまおうなどという切なくなることをまじめに考えたものである。さてGOサインが出たのでさっそく業者への見積りを出した。数社に電話連絡の上、直接話を聞きに行った。新品、中古の価格について、耐久性、保温性、建設のスケジュールなど。津田先生を中心に部員達で、広さ、価格、その他細かい面まで話をつめた。価格についてはどこもほぼ同じで、それを発注の段でどこまで下げられるかが問題であった。回答価格より三万下げれば上できであろうと考えていた。数社に電話。うち一社の回答が信じられぬ程安い。受話器を持ちながら電卓で計算するが店頭表示での価格を五万は下まわっている。その場で商談成立。断熱材込みで発注。建設当日は部員が立ちあった。パネルの一枚を何の気なしにめくってみたら断熱材が見えない。社長に確認してみたところ、入れ忘れたようだとの事。断熱材の料金三万は支払えぬ旨伝え、十五万五千円支払い一件落着。

無 題

四年 田 辺 敬 富

今年も部報の原稿を書く時期になった。ついこの間書いたと思うのに一年間過ぎるとなんて時がたつのがはやいものかと感じられる。

さてこの一年副将という役職についてクラブを運営してきたがいったい何をやってきたのかと思ひ返すと、これといって思ひ出すことが少ないと感じられる。

しかしだからといって一生懸命にやらなかったわけではないと自分では思っている。

また残念なことは毎年学校側に要求していた馬場、厩舎が新しくならなかったことだ。厩舎を見てももう限界ではないかと思う。

最近厩舎長という役をまかせられたので出来るかぎり新厩舎、馬場の獲得に向けてがんばりたいと思う。

無 題

四年 山 本 純 也

クラブを続けて来て、四年が終ろうとしている。その間にいろいろな役職をやってきたが、今年は主将として一年間を過ごした、そして改めて自分の力の無さを知った思ひだ。それはまず、下級生の頃に、一年一年を何も考えず過ごして来たためであると思う。考えて活動していれば一年間を、もう少し計画をもってよりよい活動ができたであろうと反省している。

次期からは馬の大きな入れかえも考えており、下級生にとっても大

きな希望となるであろうから、今がんばっていることをよりよい結果にむすびつくように活動していこうと思う。

無 題

三年 戒 能 正

馬術部に入って、三年目になった。今年は学校の方が大変で、毎日、実習におわれ学校が終るのがだいたい六時半ごろになる。それからクラブに行くわけだが、四時半から始まる馬術部は私が行くころにはもう終りにさしかかっている。毎日、練習が終った後で来て、お疲れ様でしたと言って帰ることになってしまう。大変いやになる。学校の方はだんだん忙しくなり、クラブにも次第に行かなくなった。三年生がこんなことでは、なさけないとは思ったが、クラブからはほとんど離れていった。一年のころクラブが楽しかったところが、全く遠い昔のようを感じる。

部員二年目になって

二年 霜 村 次 郎

今年で自分もこの松齒大馬術部員となって二年目になるわけだが、二年目になってべっにかわったことがあったというわけではなく、自分の下に後輩ができたことぐらいで、今さらこの原稿用紙に自分の所見を書くことままだらぬことだが、書くことができないのは自分がクラブに力を入れてないということかもしれない。だが、今このクラブの現状からは自分も含めて部員一人一人の意志の無さが現われてしまっ

たのが非常に残念だったと思う。

いろいろと前進するためにやってみたのだが、なかなか思うようには行かないもので、他の人達に迷惑をかけてしまったことに對して、自分達が頑張らねばならないことだ。自分は今は事情でクラブを休んで夜のアルバイトに行っているわけだが、はっきり言ってバイトの方が楽なんですよね。それだけうちのクラブが、精神的、肉体的にしんどいということが改めて身に感じ、この状況のなかで、自分に後輩がいてクラブに出て活動をしているというなかで何もしてやれないということに恥ずかしいばかりです。

今のこの現状をはやく乗り切り後退することのないクラブを目指していくことを目指して行こう。

難 題

一年 青木 邦和

この部に入る前に抱いていた、馬術部のイメージと、実体とは、まったく異なったものであった。初めて厩舎に来た時、「よくこんな所に三頭も生きていられる。」という驚きの言葉しか出てこなかった。

しかし、入部して少したってから、三頭で目が点になっていた所へ、さらにもう二頭、ブルーノートと風鈴が来て、計五頭となった。

“あの狭い馬場でどうやって運動させるのであろう”と不思議に思ったが、そこは“常識の通用しない馬術部”の名言よろしく、なんとか今日までやってきている。

しかし、ここで一つの大きな問題が出てきた。“金”がかかるので

ある。どの大学の馬術にとっても“金”と“作業時間の長さ”は二大問題であるが、特に我部の場合、深刻である。五頭所有している大学は、だいたい支出、収入共に三百万台なのに対し、我部は、収入が、百八十八万少々、支出が百八十五万少々と、非常に少ない。これだけ切り詰めても、まだ切り詰め足りないと言うのが、それな残酷ですらあるのではなからうか。

このような悔しい思いをしたりしたが、なんとかめげずにここまでやって来られた。秋には部班で優勝もできた。これも偏に諸先生、諸先輩らのお陰であり、来年も期待に添えるよう、より一層努力してゆきたいと思う。

無 題

一年 鈴木 研

入部して半年以上たち、初めは台が無ければ乗れなかった馬にも、ようやく慣れて来ました。

入部してすぐの五月頃には、一日に二度・三度と落馬して居り、一時は退部しようか、とも考えて居た程です。今でも高所恐怖症の自分は馬に乗るのが恐いのですが、落馬する数も、週に一度、月に一度と段々に少しになり、先輩方の御指導と、やさしい御心遣いで、今まで続けて来る事が出来ました。まだまだ未熟な自分ではありますが、これからもよろしく御指導願います。

馬術部に入部して

一年 六川 真由美

初めて厩舎を見たときに、思わず笑ってしまいました。今にも風で飛んでしまうような厩舎で、「本当にここでクラブするんですかあ。」と聞きたいくらいでした。しかし、OBの先生方や先輩たちが造った手造りの厩舎だと聞いて、「すごいなあ」と感動しました。

あれから十か月もたちましたが、私は今だに馬にうまく乗れません。今まで何をしてきたのだろうと考えると、夏休みの少し前から車の教習所に通いだし、それから休みぐせがついてしまい、ふまじめだったからです。今となっては、もっとまじめに行けばよかったと、とても後悔しています。

今までの中で一番嬉しかったことは、ジュンに乗って、両手を手綱からはずして速足で走ったときです。サーカス団員になった気分です。とても気持ち良かったです。

このクラブは、他のクラブよりたいへんなクラブだけれど、生き物相手のクラブなので頑張っていかなければならないな、と思います。

無 題

一年 渡辺 ひろみ

早いもので馬術部に入部してもう十カ月が経とうとしている。十カ月もの間、馬と接していれば、当然馬にも一人で乗れるようになるし、馬の気持ちもある程度分かるようになると思う。

現に私と同じに入部した人達は、先輩と同じまではいかないが、ある程度馬を乗りこなし、試合にまで出場している。

一方、私はといったら……この時期になって馬装も満足にできず、また一人で馬に乗ってかけ足などしたこともないという状態だ。本当になさけない事である。この十カ月間いっただい何をしていたのだろう。このままの状態で新入生が入ってきたとしたら私は馬房掃除とエサの作り方と草の刈り方ぐらいしか教えてあげられないしもしかするとすぐに追い抜かされてしまうのではないだろうか、と不安である。

泣いても笑ってもあと一年しかない。またこの一年はとも忙しくなると思うが今までの反省し、できる限りがんばっていきたいと思っている。



まどい

御商談・御宴会 四十名様迄
御予算はいかようにも
御相談に応じます

電話 527475

厩舎日誌より

1/1 (月) 晴れ(小雪パラパラ) 森・山本

昨日より気温が急に低くなったとのこと、本日も寒い一日であった。馬の体調には特に気をつけねば。おが粉が残り少ない。1/15にはおが粉を入れられると聞いているが、それまでの配分に気をつけ、場合によってはワラ使用のこと。 森

1/6 (土) 曇り時々雪 佐藤・古田

手がかじかんで字がうまく書けない。それ程寒い。明日で休みも終わり、集中餌付けも終わりです。あさってから皆さん寒さにまけず頑張りましょう。本格的な冬はこれからです。 古田

1/12 (金) 晴れ 田辺

今日も馬場不良のため運動できず、全頭ともはりぎみだ。 田辺

1/14 (日) 晴れ 戒能・霜村

今日は松本馬場で北原さんの講習会があった。寒かった。 戒能
松馬協で強化合宿、基本から北原さんに教わって大変勉強になりました。 山本

今日久しぶりにあぶみ上げで三時間も乗って死にそうだった。寒くて風邪ひきそうだ。 田辺

1/18 (木) 曇り 小沢

今日はおが粉入れがあった。17時に来ることになっていたがそれから90分ほど待った。クラブハウスはとても寒かった。いつもよりおが粉の量が少ないのがとても悲しい。

1/22 (月) 晴れ 田辺

今日は久しぶりに乗ったがエクセル、ジュンともはっていた。しかし馬場に砂が入ればもっと乗れるのに。はやく全面に砂を入れたいもんだ。

2/1 (木) 雪 森

雪が積り馬場まで車これず。夜にはやんでいるが、また降ったりして厩舎がつぶれねば良いが。

2/19 (月) 雨のち曇り 藤下

今日、朝えさをやりに行ったらジュンが外に出ていた。マセンボウが折れていた。なんていやしい馬なのだろうか。試験もいよいよあと二教課である。楽勝かもね!

3/3 (土) 曇り時々雨 戒能

夕飼にきたらやってあった。風邪のため今日は全員集合だったが休んでしまった。連絡できずすみませんでした。

3/9 (金) 晴れ 森

馬場がだいぶ乾いてきた。明日あたりから普通の騎乗、運動ができそうである。雨降らぬ事を祈る。昨日のひさびさの長時間の常歩がたたり、足腰が痛いこと。泣けて

くる。

(17時)これからラングラーへ葉を受けとりに行く。小沢さんと一緒に。

3/17 (土)

晴天

小沢・河田

今日装蹄があった。全頭行った。エクセルを松馬協に調整の為運んだ。運送中何事もなかった。この三日間手伝ってくれた森さんが今日帰省した。どうも手伝ってくれてありがとうございました。

3/20 (火)

晴れ

小沢・河田

今日、東京農大へむけて田辺、山本が出発した。あいっらにとって初めてなので不安そうであった。しかし、得る所は絶対あるのでしっかりやってきてもらいたい。

3/21 (水)

晴れ

佐藤・河田

二年になりたい。河田
五年になりたい。佐藤

3/27 (火)

晴れ

佐藤・戒能

久々でとっても疲れた。後、更衣室掃除しろばかやろー!!

二年ぶりにジュンKUNに乗せていただきました。とってもうれしくて……。ありがとうございました。稚奈

3/31 (土)

雨

午後、塚本先生の送別会の準備。7時より送別会を行った。塚本先生、本当にありがとうございました。古田

4/1 (日)

晴れ

午後は馬場が不良なので外乗に行った。ジュンがとても興奮していた。外乗では人(馬)が変わる。ジュンの目は恐い。明日で合宿五日目になる。いい加減に馬場の状態が良くなって欲しい。

4/18 (土)

晴れ

一年生七人をエクセルに乗せて引き馬しました。初めは恐がっていたけど、結構楽しそうに乗っていました。

影山君お疲れ様。何にせよ女の子が来てくれてとてもうれしい。

4/23 (月)

曇り

古田

調馬索で一年を乗せた。今のうちに基本フォームを覚えてほしい。

4/27 (金)

ハレ

影山

カツラブンチンはテストロッサにのっている。

4/29 (日)

雨

雨の日の県大会、みんなよくがんばった。入賞した部員はより練習にはげむようにノ入賞できなかった部員はより考えて練習にうちこむようにノ私の事です。なおミーティングでは13日の障害の後にいきます。山本

5/3 (木)

晴れ

田辺・山本

今日は市民祭だった。カイノがエクセルで走られる。

5/8 (火)

雨&晴れ 藤下・古田

雨の降る日が多いがてるてるぼうずをつくって神だのみをして天気になるように祈っている今日このごろである。

晴れ てるてるぼうずのおかげ

5/9 (水)

雨 河田

雨の為、作業のみ行った。今日は新人生歓迎コンパです。

今日集合17時塩尻厩舎

5/20 (日)

晴れ 藤下・影山

今日は山田先生の引越の手つだい?に行ってきた。とっ

ても昼ご飯の弁当がおいしかった。

ブルが私の練習用の服に数ヶ所穴をあけてくれた。もう

つかいものにならない。 古田

5/21 (月)

晴れ 山本

草刈、草刈、毎日草刈。馬を太らせよう。

5/25 (金)

河田

ジュン、ハミ受け良し。六川が落馬した。

7/20 (金)

晴れ 山本

今日は快晴、今頃みんな日本海へ行ってビーチバレー。

夜は刺身にディスコ。……いーなあ。 渡辺・六川

7/28 (土)

晴れ 森・佐藤・鈴木

暑い! ハエが多い!

馬協から草刈り機を借用して牧草地の雑草を刈った。疲れた。 佐藤

7/31 (火)

曇り 佐藤・森・六川

ハートは直線運動では破行はないが、輪乗りで破行が現われた。体が硬い為円運動を充分行って体をほぐしてやる必要がある。なお、いずれの場合でもおあってはいけない。 森です。

8/3 (金)

晴れ 森・小沢・佐藤

本日、ブルーとジュンを小沢沢での試合の為運んだ。道中無事であった。

晴れ 小沢・六川

8/4 (土)

晴れ 小沢・六川

今日で六川の飼いつけが終わりました。一日も雨が降らずにとってもよい天気ではーんとつかれました。

でもまあお馬さんに少しずつなれてきて良かったです。

ルンルン。今日、しみじみハートの頭の星をみて感動しました。ちなみにハートは「ねわら」にして下さい。

いかん頭痛がしてきた。 小沢

晴れ 小沢・山田

山本・田辺生還!

8/6 (月)

山本・田辺生還!

曇り後雨(台風11号) 山本・山田

エクセルの首にリンデロンVGをぬる。抗生物質の投与をやめる。

望月さんの引越を手伝う。 小沢・山本

望月さんの引越を手伝う。

望月さんの引越を手伝う。

望月さんの引越を手伝う。

8/16 (月)

曇り

山本・古田

朝六時半よりエクセル騎上。馬の状態は良く、動きもいい。

8/22 (水)

晴れ

山本・戒能

高橋

久しぶりに外乗に行った。奈良井川まで行った。意外と馬は落ち着いていた。

8/24 (金)

晴れ

山本・戒能

戒能

ここ二日でおどろやりんごやとうもろこしなど秋の味覚をたくさんいただいた。

8/26 (日)

晴れ

戒能・渡辺

山本

ブルーと風鈴がけんかをするので、場所の入れかえを考えた方が良くと思う。

8/31 (金)

晴れ

戒能・青木

戒能

雷が鳴っていたので雨が降るかなと思ったが降らなかった。いつものおばさんが今日ビール券をくれた。昨日はとうもろこしをもらった。

9/4 (火)

晴れ

藤下

明日は補綴のテストだがんばろうね。戒能君。藤下

11/4 (日)

雨

加藤・鈴木

各馬特に異常なし。

PS 昨晚〇氏はPhilipin Girlの元へとイソイソと出掛けて行った。

11/23 (金)

晴れ

霜村

今日は寒いぜ、みんなこの連休はどうしているのかな？かぜをひいてしまった霜村より。

12/12 (水)

曇り

山本

高ポッチに雪が積もった。

1/4 (金)

曇り

山本・青木

この冬一番の寒さ。ハートの馬房を直す。だが一日では出来ず明日も続行する。

1/6 (日)

曇り時々雪

佐藤・小沢・青木

雪が降ったりやんだりしてとても寒い一日だった。青木がハートの馬房を修理したがハートがもうかじり始めた。

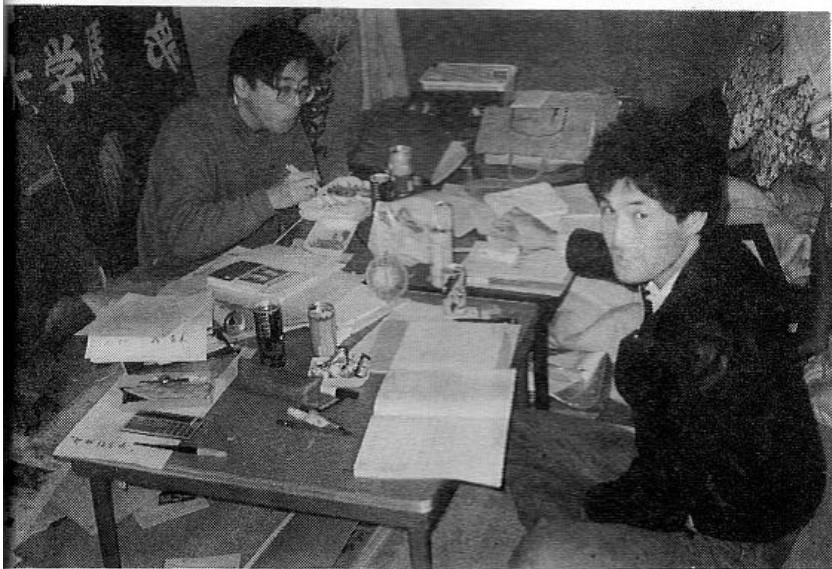
1/12 (土)

曇り

森

午後二時頃、北村先生がみえて、彼岸花の球根を多数植えて下さった。部員も不慣れな栽培作業を行った。

小沢



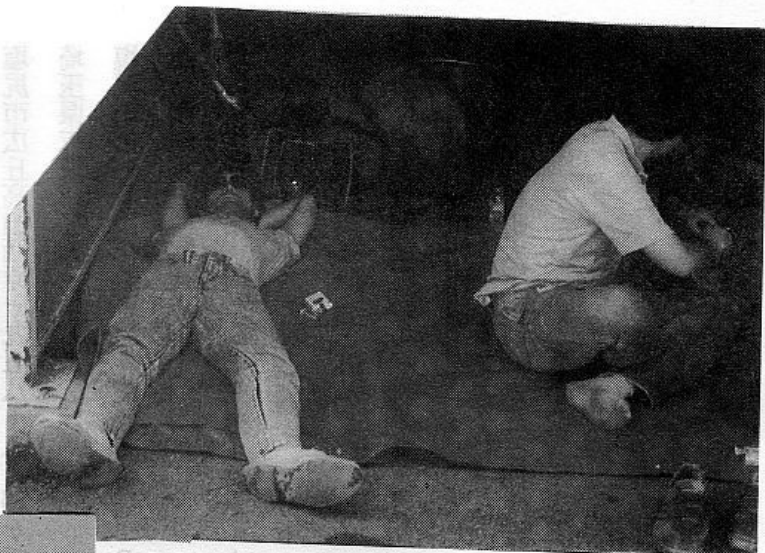
部報作成風景
いつもながらきたない部室



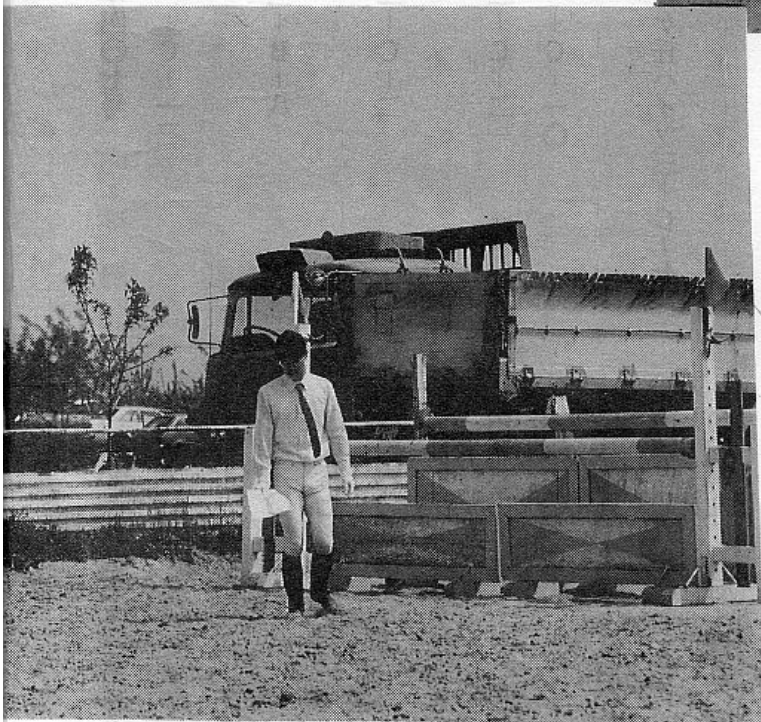
あっかんべーっ



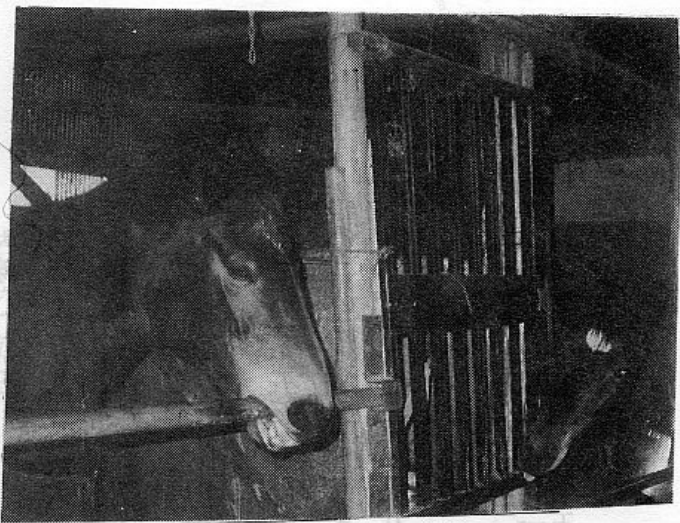
ゴロニャ〜。



フンガーゲーガー
森さんおつかれさまです。



きびし——っ！



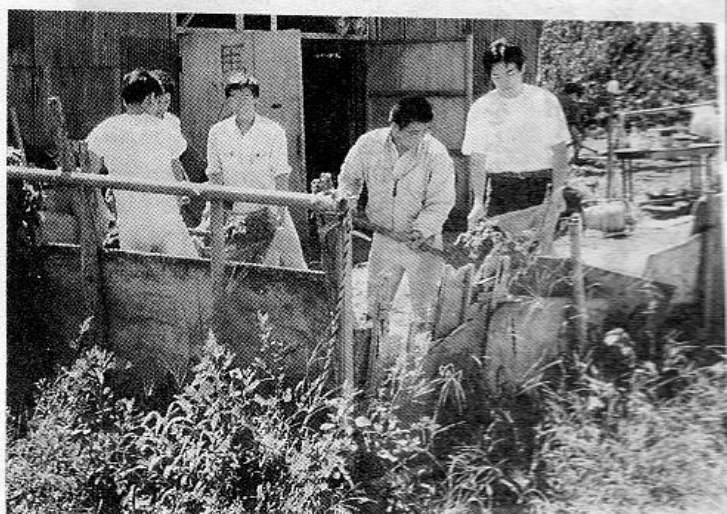
ジュンちゃんのゝゲ。



部活後に記念写真
パチリ



ガリツガリツ
んーこの歯ざわりがたまらない



笑顔がこぼれる
楽しい労働 あ〜ヤダヤダ

ミーンミーン
ツクツクボーシ
ツクツクボーシ

ヒョエー / 気持ちいいー



もう止まらない
ブルーノート



ブルのおしゃぶり



男の裸は美しい？



ブルのおしゃぶり その2

編集後記

本誌第七号は、六号に引き続き、なんとか発刊することができました。

今年は馬が五頭いるため、厩舎に足をふみ入れるか入れないかのうちに、「エサのおねだり」の嵐がふきあれるといった騒がしさがあり、部活に出るのは楽しいかぎりです。しかしその一方で、「本誌の発刊を急げ」という上層部からのお達しがあり、気が重い日々があったのもまた事実です。

そんな中、新しい企画を考えてみたものいまひとつぱっとしなかったため、前号と大差ないものとなってしまいました。(次号には、新企画盛りだくさんでいきたいと思っています)

最後に本誌発刊にあたり、御多忙の中、原稿をお寄せ下さった先生方、OB・OGの皆様方、そして快く広告を出して下さい下さった商店、会社の皆様方に厚く御礼申し上げます。

駿風編集生活向上委員会一同

SEIYU

西友

塩尻

☎0263(54)0291



関装蹄研究所へ

三十年の歴史と技術を誇る
県下随一の装蹄所
牛馬の装蹄・削蹄の御用命は

長野県諏訪郡富士見町境七三三三の三
電話(〇三六) 六四一二七一九

獣医師 関 武重 装蹄師 関 浩之
装蹄師 削蹄師